

# とれとれ収穫体験

代表者 水口 郁枝（農学部生物生産学科 3 年）

## 1. 目的と概要

高松市民の都市農村交流をサポートすることを目的に、野菜の収穫体験イベントを行いました。プロジェクトメンバーは、大学（農学部・経済学部）で学んだ知識（栽培学、グリーンツーリズム）を生かし、野菜の作付け計画から・植え付け・収穫時期に合わせたイベントを計画・実行しました。

## 2. 実施スケジュール

平成 19 年 8 月～9 月 野菜の植え付け

ジャガイモ  
ダイコン  
カブ  
ニンジン  
ハクサイ  
芽キャベツ  
茎ブロッコリー



9 月 20 日 高松市農林水産課の方と打ち合わせ  
11 月 14 日 香川農政事務局の方と打ち合わせ  
11 月 30 日 イベントリハーサル、準備物確認  
12 月 2 日 とれとれ収穫体験イベント（参加者 27 名）

※植え付け場所は高松市の「香南アグリーム」 (<http://www.agream.jp/>) という農業体験施設です。場所が大学から離れているため、植え付け後の水やりなど、畑の管理は香南アグリームの所長さんにご協力をいただきました。また、高松市農林水産課の方々にも栽培管理をはじめ、作付け計画等のご指導や、イベントの主催者になっていただくなど多くの協力をいただきました。毎日通うことのできない私達は、週に 1 度、作業のお手伝いをしました。

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

#### 「とれとれ収穫体験～米粉パン&冬野菜収穫～」

平成19年12月2日（日）9:30～13:00

- ・場所：香南アグリーム
- ・募集人数：25人（実際は27名）
- ・参加費：1人500円（当日集金）
- ・持ち物：エプロン、三角巾、タオル、軍手、長靴

※主催：高松市農産物ごじまん品推進協議会

共催：香川大学とれとれ収穫体験プロジェクトチーム



◇イベント当日、このプロジェクトを立ち上げて本当に良かったと感じました。多くの参加者の笑顔、何度も見ることができました。どの親子も収穫に夢中になっていました。畑のあちこちで「ほら見てー！！」「次はニンジンだよ！」など子どもたちの楽しそうな声が上がりました。プロジェクトメンバーは、自分の担当の野菜を決め、収穫方法を参加者に教えました。子どもたちが収穫した野菜に目を輝かせているのを見て、とてもうれしく感じました。また、自分たちが植え付けた種や苗が立派な野菜に成長していることにも感動しました。



みんな夢中！



スタッフ♪



がんばれー！

◇収穫体験後、収穫野菜でシチューを作りました。これはプロジェクトメンバーで行い、参加者の方には米粉パン作りをしていただきました。米粉は、農政事務所の方のご好意により無料で提供していただき、パン作りの講師もお願いしました。



こねてこねて…



まとめてまとめて…

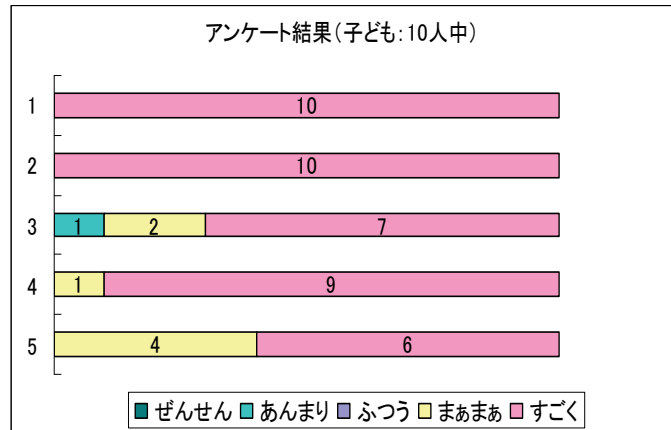


おいしいね！

## ☆イベント終了後のアンケート結果☆

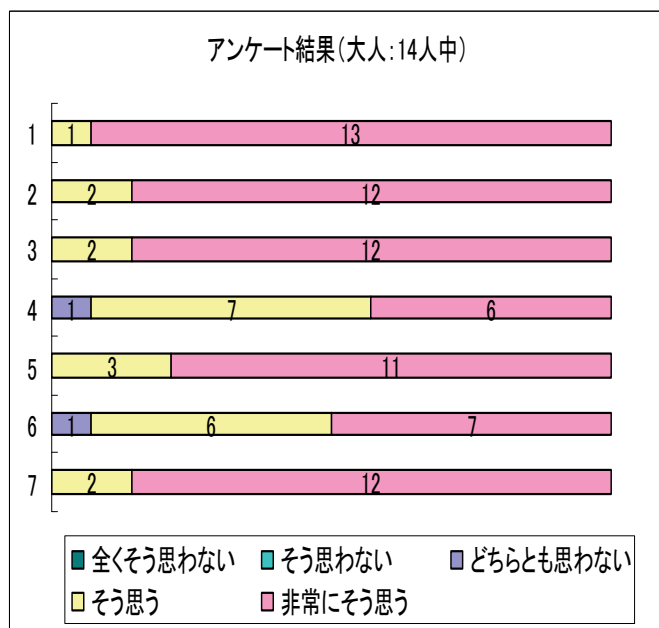
### 【子ども用】

1. 今日は楽しかったですか？
2. 収穫体験は楽しかったですか？
3. 米粉パン作りは楽しかったですか？
4. 料理はおいしかったですか？
5. 家族や友達との交流ができましたか？



### 【大人用】

1. 今日のイベントは楽しかったですか？
2. 野菜の収穫体験は楽しかったですか？
3. 料理はおいしかったですか？
4. 説明はわかりやすかったですか？
5. 価格は良かったですか？
6. 家族や友達との交流ができましたか？
7. 今後も収穫体験のイベントがあったら参加  
したいですか？



◇アンケート結果から、ほとんどの方にイベント内容を満足していただけたことがわかります。全員の子供が「野菜の収穫体験が楽しかった」と答えており、とてもうれしく感じました。今回のプロジェクトの主要目的である、高松市民の都市農村交流については「家族や友達との交流ができましたか？」という質問で、そう思うと答えた方が多かったこと、そして今後も収穫体験のイベントに参加したいという意見が多かったことから、少なからず貢献できたのではないかと感じました。自由記述の欄にも、「定期的な開催を望みます。」「春夏秋冬もやりたい！どんな野菜が採れるのか知りたい。」「親子で楽しむことができました。」など、収穫体験にこれからも参加したいという気持ちが伝わってくる内容でした。

反省点は、内容の多いイベントだったため時間にゆとりが持てなかったことです。アンケートの中にも「もっと収穫体験の時間をとってほしい」「収穫した野菜で料理したかった」などの意見がありました。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクトでは、地域の方々と直接ふれあう機会が何度もありました。香南アグリームの所長さんやスタッフの方々、高松市農林水産課の方々、香川農政事務所の方々、そしてイベント当日に迎えた高松市在住の家族とのふれあいです。学生の私たちが直接動くことによって、大学と地域との交流がより深まり、地域活性化に貢献できたのではないかと考えます。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

一つのイベントに向けての準備が、これほど大変だと思っていませんでした。作付け計画、植え付け、畑の管理、イベントの計画・実行にいたるまで、本当に多くの方の協力がありました。地域や人とのつながりを実感することができました。

授業のあとすぐ畑に向かって作業をしたり、市の職員の方と打ち合わせをしたり、休みの日もリハーサルをしたりと、忙しく充実した日々を過ごすことができました。また、大学で学んだ知識を実践でうまく生かせなかったり、実はしっかり理解していなかったことに気付いたりしてあらためて学習内容を深めることができました。

#### 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点は、収穫体験のイベントを1回しか行えなかったことです。アンケートにもあるように、定期的な収穫体験や、季節ごとの大きな収穫イベントを実行できたら良いと思います。高松市広報でとれとれ収穫体験のイベント告知をした際、100名以上の応募があり、とても驚きました。結果、抽選で参加者を選ばせていただきました。このように収穫体験は、都市農村交流、親子の交流、地域との交流、食育などに関連することから非常に関心が高まっているようです。

このプロジェクトを実行して、イベントには多くの方の協力が必要だということ、準備がとても大変だということ学びました。サークルや授業との両立で疲れがたまっているときもありました。しかし、イベントで参加者の方の楽しそうな顔を見たり、メンバーとの息がぴったり合ったりすると疲れが吹き飛びました。イベント終了時には達成感がありました。ぜひ、後輩たちにも大学生の時に1回は自分たちで企画したイベントやプロジェクトを実行してほしいと思います。

もしも収穫体験を企画してみたいという方がいれば、よろこんで協力させていただきます（＾＾）。

#### 7. 実施メンバー

代表者	水口郁枝	(農学部3年)	
構成員	平井美希	(経済学部3年)	頭巾祥子 (農学部3年)
	山畑 梓	(農学部3年)	藤原亜紀 (農学部3年)
	高木未菜	(農学部3年)	